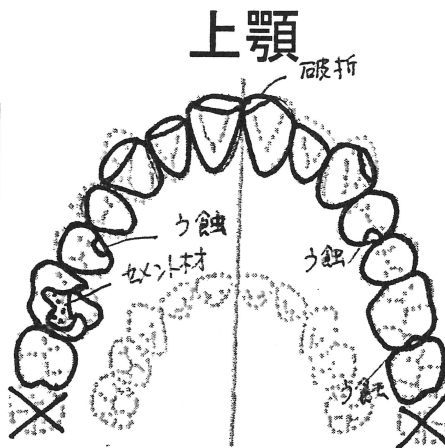


デンタルチャート

検査日: 2020年4月22日

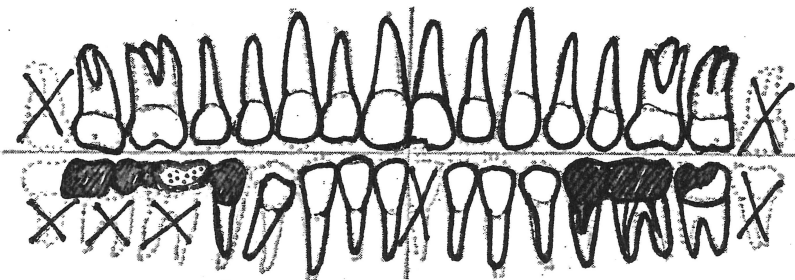
場所: 広島大学死因究明教育研究センター

11	A	残存歯
12	B	残存歯
13	C	残存歯
14	D	残存歯
15	E	残存歯
16	インレー脱離 歯冠色セメント露出、口蓋側歯冠破折	
17	残存歯	
18	欠損(歯槽窩無し)	



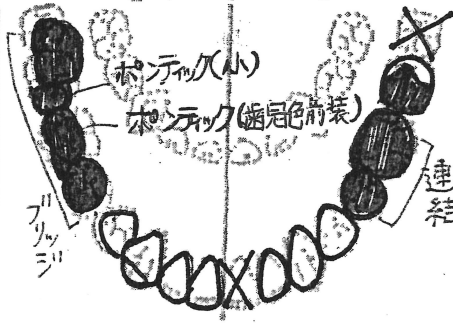
21	A	残存歯・歯冠破折
22	B	残存歯
23	C	残存歯
24	D	残存歯
25	E	残存歯
26	残存歯	
27	残存歯	
28	欠損(歯槽窩無し)	

右側



左側

48	欠損(歯槽窩無し) 全部金属冠・ブリッジ(支台歯)	
47	欠損(歯槽窩無し) ポンティック(小臼歯大・銀色)、ブリッジ	
46	欠損(歯槽窩無し) ポンティック(銀色)、ブリッジ	
45	E	全部金属冠・ブリッジ(支台歯)
44	D	残存歯
43	C	残存歯
42	B	残存歯
41	A	残存歯



38	欠損(歯槽窩無し)	
37	アンレー	
36	全部金属冠・連結	
35	E	全部金属冠・連結
34	D	残存歯
33	C	残存歯
32	B	残存歯
31	A	欠損(歯槽窩有)

下顎

・下顎右側第二小臼歯と第三大臼歯相当部の全部金属冠を支台とし、大臼歯欠損部に大臼歯1歯(銀色、歯冠色前装)・小臼歯1歯大のポンティック(銀色)を有するブリッジを認める。
 ・下顎右側のブリッジの支台歯である第二小臼歯は動揺し、遠心大臼歯欠損部の歯槽骨は大きく吸収している。その他の部分の歯槽骨吸収は全体にわたり軽度～中等度(歯根長の1/3~1/2以下)である。

・咬耗は右側がより顕著で、上顎右側小臼歯部咬頭が平坦で前歯部切端は象牙質が幅をもって露出している。
 ・年齢は、歯科エックス線画像の計測値(歯槽突起吸収指数(井上ら、2001)、Kvaal法、歯髓腔歯牙面積比(Cameriere法))、口蓋の縫合および歯髓腔狭窄・歯槽骨吸収程度から、50歳～70歳代と推定される。

2020年6月10日

・第一版(2020年4月22日作成)から下顎ブリッジおよび咬耗部の記載を左側から右側へ訂正。

死体状況	白骨	死後画像撮影	デンタル・口腔内写真	有(デンタル11枚、口腔内写真9枚)
			CT	有 Ai00053(添付せず)